NIE実践報告

1．タイトル：☆新を活用した意見文指導

2．学校名

北海道留辺蘂高等学校

3．実践者名（代表者名）

手束正紀

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語科（必修科目）　国語表現Ⅰ　24人

6．単元（本時の学習課題）名

「意見文執筆」

7．目標(狙い)

自分の意見を相手に納得させるため、主張を明確にし、順序立てた文章を書くよう工夫する。

8．評価の視点

【書く能力】自分の意見を相手に納得させるために主張が明確になるよう工夫しているか。
【知識・理解】原稿用紙の書き方の基礎基本が身に付いているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「原稿用紙の使い方」　3時間
「意見文執筆（発表）」　7時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①原稿用紙の使い方を学ぶ。　(2時間)
②コラムの原稿用紙へ書き写す。　(1時間)
③新聞記事（コラム、社説を含む）から記事を選び意見文を執筆する。　(5時間)
④執筆した意見文をもとにスピーチ発表をする。　(2時間)

今年も新聞提供事業（計6紙）を受け、9生徒全員に新聞を配布しながら新聞の切り抜きをすることができた。興味、関心のある記事・興味のある記事を切り抜かせ、それに対する意見・感想を書かせスピーチとして発表させた。

（留意点）
・興味や関心を持った新聞記事を切り抜き、意見・感想が書けそうな記事を選ばせる。
・ペアを組み、意見を交換させ、違った観点の意見を参考にして意見文を書かせ、スピーチさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

普段の生活から新聞に対して抵抗感がある生徒が多く、まず、新聞の中での比較的読みやすい「コラム」を取り上げることから始め、徐々に記事に目を通していけるよう配慮した。読み始めると、生徒たちはとても興味を持ちながら読むことができていた。

12．成果と課題

昨年度は国語科にとどまらず、社会科にまで新聞を活用した実践が広がり、生徒の「思考の材料」「表現の材料」として授業の中に新聞を取り入れてこられた。しかし、今年度は、新聞活用の実践の広がりはなかった。

本校では、漢字の読み書きが苦手な生徒が多く、新聞に使用されている漢字（用語）がスムーズに読めないために、新聞そのものの興味を失ってしまう生徒も少なくない。漢字の読みにルビをふるなどの工夫や語句の意味調べなどを併せて授業の展開をしていくことで新聞に対して興味を失わせないよう工夫は必要である。